

令和5（2023）年7月吉日

「門の両脇にクロマツ（市の木）とマキ（県の木）」 —後世に残したい千葉縣市川市の文化的景観—

伊藤三平

（市川市八幡在住）

「市川市の木」としてクロマツが選定されている。私自身、出張から帰り、江戸川鉄橋を渡り、総武線の北側車窓に「屋根より高いクロマツが林立する風景」を眼にするとホッとしたものである。私に限らず、クロマツの風景に愛着を持つ市民は多いが、残念ながら、この風景は消滅しつつある。

私は、もう一つ、市内の個人邸宅の門の両脇に、クロマツとマキを配している景観も残したい文化的景観と考えている。去年（2022年）の7月に、市のホームページで紹介して欲しいと関係部署に要望したが難しいようなので、同期諸氏に紹介したい。ちなみにマキは「千葉県の木」に選定されていて、「いすみ市内の榎の生垣集落の景観」は”ちば文化的景観”に選定されていて、県のHPで紹介されている。

（リンク先は館山市HP <https://www.city.tateyama.chiba.jp/tosikeikaku/page100003.html>）

「千葉県の木」マキは、南総地域だけでなく、北総の地にも文化的景観としては存在することを知っていただきたい。

【参考1：門の両脇にクロマツとマキを配した住宅の例（その1）】



八幡2丁目



菅野1丁目



東菅野1丁目

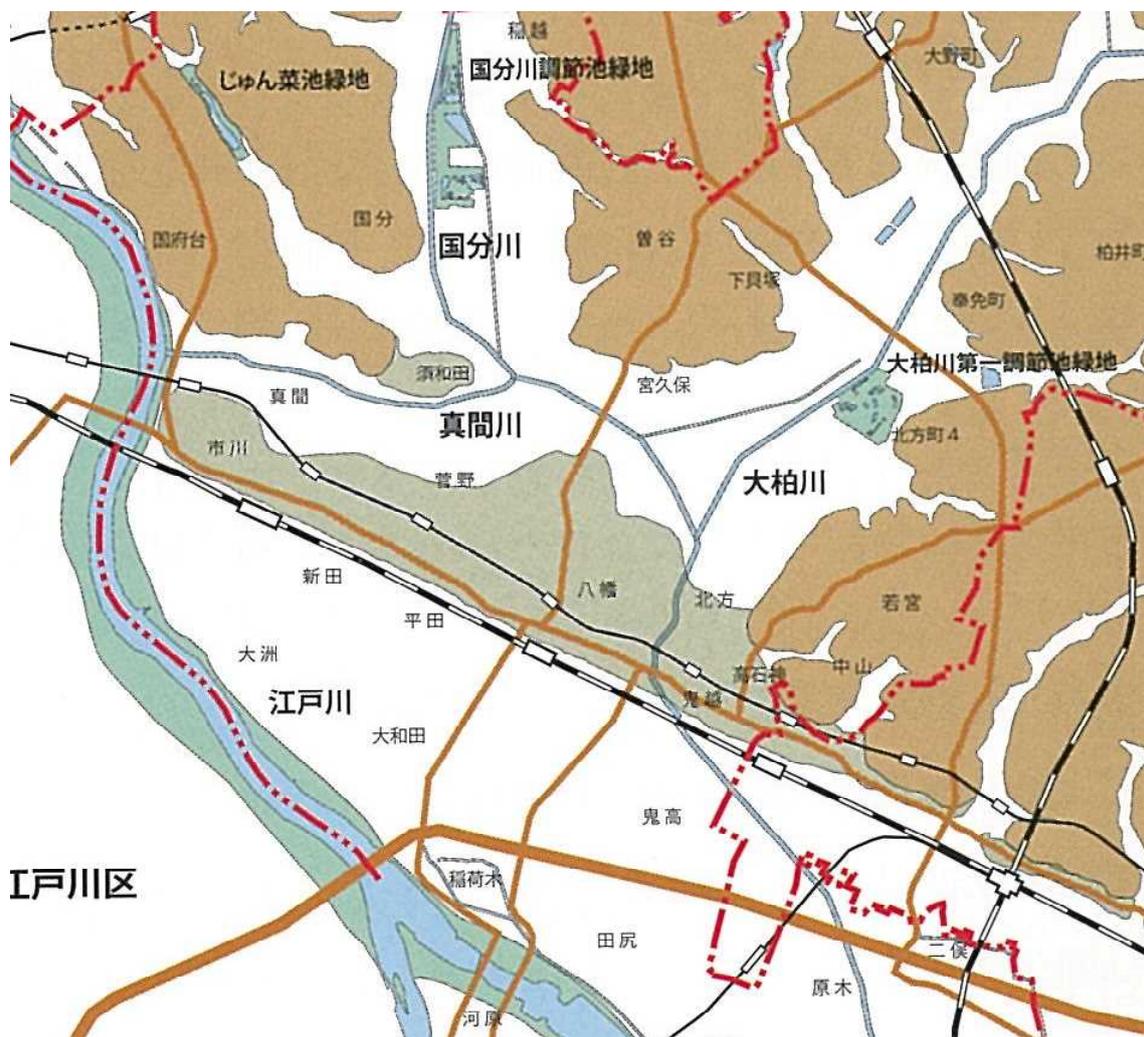


八幡5丁目

1. 市川市にクロマツが多かった理由

市川市は、約 6500 ~ 6000 年前の縄文海進と称される時代は、北部の北総台地（国府台、国分、曾谷、中山の各台地）の際まで海であり、台地の際に堀之内貝塚、曾谷貝塚、姥山貝塚などの貝塚遺跡が存在する。台地と台地の間は下総台地特有の谷津として湿地と川（国分川、大柏川）が形成される。また真間は江戸川からの入り江（跡が真間川）であった。その後、海面が徐々に下がると、この地は東京湾の奥まったところである為に、波で運ばれた土砂が流入することなく堆積していき、広大な「市川砂州」（江戸川東岸から中山台地まで）が約 1000 年前までに形成される。当時の海岸線は JR 総武線と国道 14 号の間辺りである。（下図参照『市川市史 自然編』をトリミング）

「白砂青松」の言葉があるが、砂地はクロマツの生育環境に良いのである。

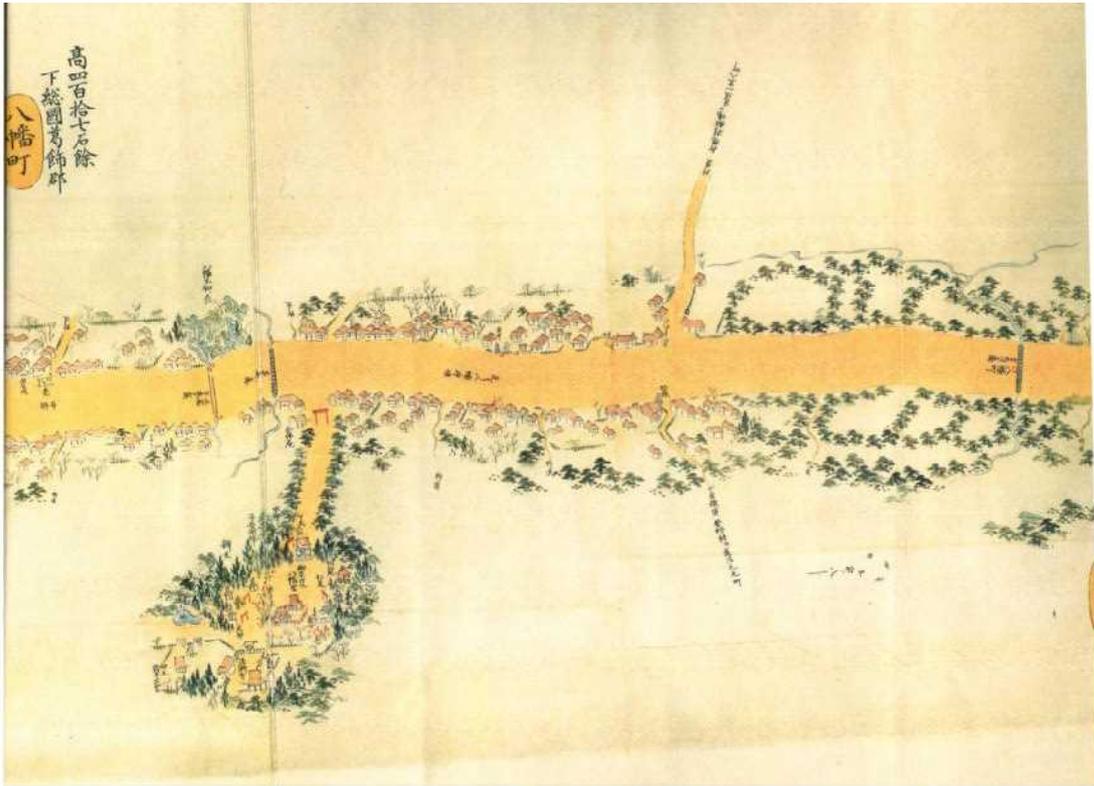


- 台地 □ 低地 ■ 砂州 ■ 川・海 ■ 河川敷・調節池など
- 市境 — 道路 — JR線 — JR以外の鉄道

国土地理院発行 2万5千分の1地形図
 [昭和27年・平成17年発行 松戸] [昭和28年・平成11年発行 船橋] [平成17年発行 浦安] [平成10年発行 白井] [平成10年発行 習志野]
 [平成17年発行 千葉西部]をもとに作成。
 大柏川第一調節池緑地、国分川調節池緑地、行徳近郊緑地特別保全地区の水域は平成27年撮影の航空写真をもとに作図した。

この市川砂州上に、奈良時代から「東海道」(現国道 14 号)が設定される。(それまでは三浦半島の走水から海路で富津に行くルートが東海道)

この道(国道 14 号)は江戸時代には「日光街道」の脇往還として千住で「水戸佐倉道」に分かれ、葛飾区新宿で「水戸道」と分かれ「佐倉道」として房総の大名が参勤交代に利用し、庶民は成田参詣に利用した。八幡宿までが道中奉行の支配下にあり、下図は江戸後期の文化 4 (1807) 年に道中奉行が指示して作成された「水戸佐倉道分間延絵図(複製)…現物は重要文化財…」の八幡宿近辺である。左下が葛飾八幡宮である。



絵図における濃緑の木々がクロマツである。図下部の葛飾八幡宮境内と参道に多い。街道筋の図左側は八幡宿で人家だが、図右側の市川方面の街道脇にクロマツが植えられていることがわかる。昔は街道の市川寄りに「三本松」という三本のクロマツの名木があり、今でもバス停に名を残している。地図の中程に上に向かう道が画かれているが、これが行徳街道である。今では途中に市川文化会館がある。

この地は、江戸時代後期には特産の梨畑(梨祖と称される郷土の偉人の川上善六が、この地が砂地で思うように農産物が収穫できないことに悩み、研究して木曾川、揖斐川、長良川の木曾三川(さんせん)の砂地で育つ梨を移入して、育成技術を村人に惜しみなく教えて特産となる。梨も砂地で育成可能な植物)を囲む敷地境界・防風林としてクロマツが植林されていたことも、この図で理解できる。すなわち、市川にクロマツが多い理由は次の通り。

①市川砂州の砂地が適地であったこと

②佐倉道の街道並木として植えられたこと

③特産となった梨畑、その後桃畑も生まれるが、その境界木、防風林として植樹された。

(注:江戸時代に江戸百万都市の門松をこの地が賄ったとの説が『市川風土記』(市川ジャーナル編)に記され、井上ひさしのエッセイ「わが町 市川」に紹介されているが、検証できる史料はなく、クロマツが広く分布していることから誤りと考える)

【参考2：屋根より高いクロマツが聳えている風景】（菅野2丁目）



2. 市川市のクロマツが消滅しつつある理由

都市化が進めば仕方ない面があるが、次の理由から道端や人家、寺社のクロマツは消滅しつつある。

- ①地価の高騰と、相続税制の為に、代替わりになると、大きな御屋敷が売却される。不動産業者は地価が高い為に土地を細分化してミニ開発として販売しやすくする。そうなる
と狭い敷地に容積率・建坪率^{けんぺいりつ}一杯の住宅を建てることになる。
- ②昨今の人々は庭の木々よりも駐車場の優先順位が高い。自家用車の駐車場も設けると、植樹など考えられない。
- ③庭木を考える人も、大木となって個人の剪定では難しくなる木は敬遠しがちとなる。
- ④特にクロマツは植木職人を頼んでの剪定で樹形が整うが、こういうことにお金をかける文化がなくなりつつある。
- ⑤市川市は道路事情が悪く、狭い道路を解消する為に、建て替え時に所定の道路幅を確保することが求められ、塀脇のクロマツは伐採される。

3. クロマツとマキを門の両脇に配置する邸宅の風景

市川市には「クロマツを守る会」をはじめとして、いくつかの市民団体がクロマツの保護を訴えている。また「戦争中の松脂採取痕を戦争遺産」という市民グループも生まれ、

違った視点から現存するクロマツを保護すべく運動している。

門の両脇にクロマツとマキをしつらえている邸宅の風景を守りたいと遠吠えをしているのは私だけだと思う。

私自身は狭小な宅地に住まいして、門脇のクロマツ、マキも無いから、主張に迫力は無いのだが、逆に自宅がそうである状況で、景観保護を求めるのは嫌らしいだろう。

文化的景観とは「地域における人々の生活又は生業及び当該地域の風土により形成された景観地で我が国民の生活又は生業の理解のため欠くことのできないもの（文化財保護法第二条第1項第五号より）」と定義されているが、市川市民が生活拠点の宅地の門に、地域の植生に適合したクロマツとマキを生活の潤いの為にシンボル・ツリーとしたものであり、要件に適合すると思うのだが、どうであろうか。文化は心の安らぎに資すものだ。

去年（2022年7月）に市川市の関連部署に提案しても音沙汰が無いので、千葉高の同期諸氏に紹介する次第である。お互いに、この歳になると住宅の建設は終わり、中には老人ホームや老人ホーム替わりのマンションが関心事項になると思うが、頭の片隅に留めていただけたら幸いである。

また自宅がそうであるという同期がいれば、連絡して欲しい。

- ①マキ（イヌマキ）は常緑樹で、冬でも葉が落ちず、葉も密集して潮風に強い。温暖な気候を好むので、安房地方では^{いけがき}生垣に使われる。マキの生垣の連なりが美しい集落景観として、「千葉の文化的景観」に館山市八幡（鶴谷八幡宮周辺）、南房総市富浦・丸山や、いすみ市内、匝瑳市内のマキの生垣集落が選定されている。マキの大木は、いすみ市の長福寺、鴨川市の鏡忍寺のものが県や市の天然記念物に指定されている。北総地域においても、マキはこのように愛されていることを千葉県にも伝え、「文化的景観」の指定までは無理でも、県のHPにおける「県の木」の解説ページに載せていただけると良いのだが。
- ②もちろん、市川市のHPの「市の木クロマツ」の紹介ページにも、クロマツとマキをセットにした門の造りが市内の景観の一つとして存在することを記載して欲しいと思う。
- ③門脇にクロマツとマキが、県内各地にも存在するのかは、実証的に検証していないが、千葉市で長く造園業を営んでいた同期のK君に確認すると「門にかぶさるように一本枝を伸ばした仕立て物を門かぶりといい、クロマツが圧倒的に多い。マキは庭の主木として、仕立て物がよく使われます。京都の庭の多くでは落葉樹で四季の変化を楽しむ。常緑樹を多用するのは武家、寺社が多い。マツの門かぶりとマキの仕立て物は関東に圧倒的に多いが、門には左右どちらかにマツの門かぶり一本を植える事がほとんどです。マキは近くにあっても門かぶりには使いません。」との回答であり、市川市の特色と考えられる。
- ④市川市内のこれら風景は後世に残したいが、民家にあり、市の関与も難しいと思う。しかし、このような伝統があったことを市民に伝えて、外構として門を造る時の参考にもしてもらいたい。また市が新たな施設を造る際も、どうにかして取り入れるように検討していただけたらありがたいのだが。

【参考3：門の両脇にクロマツとマキを配した住宅の例（その2）】

先に紹介した写真と、以下の写真は、私の家の近くを自転車で半日巡回して撮ってきた写真であり、市内には、まだまだ残っていると風景と考えられる。建て替えをして門を除去しても、シンボル・ツリーとして残しているお宅もあり、御人柄が偲ばれる。また先日、市川砂州外の南八幡でも見かけた。



菅野1丁目（建て替えても門脇の木を残す）



八幡5丁目



菅野2丁目



東菅野1丁目



八幡5丁目（松の大木を生かして片側にマキ）



八幡5丁目